１５日のNY原油先物相場は、４日続伸し、ＷＴＩは前日比１．１８ドル（２．１７％）高の１バレル＝５５．５９ドルと、昨年１１月１９日以来約３カ月ぶりの高値となりました。ＯＰＥＣ主導による協調減産効果への期待が高まり、引き続き原油相場の買いを支えました。さらにこの日は、サウジのサファニヤ沖合油田が２週間前から一部操業停止に追い込まれているとの報が流れたことも買い材料視されたもようです。このほか、米中通商協議の延長が決定され、貿易摩擦解消に向けた交渉の進展に期待が広がったことも原油買いを後押しした。

つづいてニューヨーク金ですが、反発し、前日比８．２０ドル（０．６２％）高の１オンス＝１３２２．１０ドルでした。世界的な景気減速懸念のつよまりから、安全資産とされる金は買いが先行しました。一方で米中両国の貿易協議進展に対する期待が広がる中、米株相場が大幅反発したため、安全資産としての金の魅力はさほど高まりませんでした。

つづいてロンドン銅ですが、３日続伸しました。

15日のシカゴ市場で小麦は続落し、約1カ月半ぶりの安値をつけました。前日に米農務省が発表した輸出売上高が市場予想を下回ったうえ、新規輸出商談に乏しいことを懸念する売りが出ました。